

(様式4)

校 種	小 ・ 中 どちらかに○	学校番 号	1 6	学校名	宇都宮市立 晃陽中 学校
-----	-----------------	----------	-----	-----	--------------

令和4年度 健康（体力・保健・食育・安全）に関する取組

1 健康（体力・保健・食育・安全）に関する主な実態

(1) 定期健康診断・元気っ子健康体力チェックから

・視力検査の結果、視力が1.0未満の生徒は全体で58.3%であり、半数以上の生徒が視力1.0未満である。昨年・一昨年に比べて増えてきている。今後もさらなる視力低下が心配される。

・歯科検診の結果、う歯のある生徒は非常に少なく、全体で6.4%であった。歯垢がついている生徒は全体で20.5%、歯肉炎になっている、なりかけている生徒は全体で8.8%であった。はみがきがよくできていない生徒は、現在も多いようだ。

・新体力テストの結果から、長座体前屈（柔軟性）、ボール投げの値が大きく全国平均を下回っている（昨年度同様）。また、前年度と比較すると全体的に体力はやや改善傾向であるが最悪を脱したという程度。新型コロナウイルス対策による運動機会の減少（部活動含む）も影響していると考えられる。

(2) 元気っ子健康体力チェックのアンケート及び国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから（※体力・保健・食育・安全について、それぞれ記入する。）

【体力】・運動をすることが好きな生徒は全体として非常に多く、肯定的な回答の割合は81%程度（昨年度82%）である。休み時間や放課後、休日に自ら運動をしている生徒は62%であり、実際に昼休みに外遊びをする生徒は一定数いる。

【保健】・コロナの影響なのか、基本的生活習慣が身についていない生徒が目立つようになってきた。中学生ではあるが、小学校と同じような保健指導も、引き続き行っていく必要がある。

【食】・栄養バランスに対する興味関心が高い。栄養士が食育だよりなど食育掲示資料等で啓蒙していることもあり、郷土料理や地産地消についての意識が高い。

【安全】・学区内は、国道119号線・293号線が通っており、交通量が多い。また、その他は農道等が多く、人の目に触れにくい。生徒の安全意識の向上と行動力育成のため、時期に応じた全体指導や外部機関と連携した交通安全教室を開催している。

(3) 授業や健康安全・体育的行事等への取組状況から

（※体力・保健・食育・安全について、それぞれ記入する。）

【体力】・授業の中で準備運動にランニングを取り入れ、また長距離走で目標を持たせ取り組ませたことで、持久走大会では、練習も含め懸命に走る姿が全体的に見られた。一昨年度から授業の準備運動に柔軟運動を取り入れて、柔軟性の向上に取り組んでいる。

・体育祭はコロナの影響で2年ぶりで縮小での開催となったが、能力に関わらず、楽しんで参加する生徒は多く、思い出にも残ったという発言が多数聞かれた。

【保健】・コロナ予防に関する保健指導がどうしても中心になってしまうが、その他の保健指導も学年単位や個別の保健指導を充実させることで、少しずつ意識は高まってきている。

【食】・給食委員会で「朝食強化週間」「食事マナー重点指導週間」を企画・実施し、生徒の手で食に対する意識高揚のための喚起をしている。

【安全】・昨年度はコロナ禍の影響で、朝の健康観察を十分に行うために、登校指導の充実は難しかったが、その分下校指導に力を入れて取り組んだ。生徒の交通安全やマナーへの意識は比較的高く、苦情や大きな事故は少なかった。

2 今年度の重点目標

「自他ともに健康で安全な生活を送ろうとする実践力の育成」

3 今年度の取組（「学校教育スタンダード」に関する取組は文頭に★、「令和4年度指導の重点」に関する取組は文頭に□）

- ・保体科授業での準備運動から含めた運動量確保に努め、体力の向上を目指しながら、ICTの活用も視野に入れて運動の喜びや楽しさ感動を味わわせ、生涯体育につなげる指導を工夫する。
- ・爪が長い、前髪が長い、お風呂に入らないなど、基本的生活習慣が身につけていない生徒が目立つ。学校園で連携し、小学校からの継続指導を行っていく。
- ・年々視力低下が悪化してきているので、姿勢指導と絡めて、タブレットやICT機器との付き合い方などの指導を、引き続き取り組んでいく。
- ・望ましい食習慣を体得させるとともに、食を通して、望ましい人間関係をより良く構築し、心身ともに健全な生徒を育成する。（学校給食において、地域の食材・企業を活用した学校園オリジナル献立を実施する）
- ・より良い食習慣を身に付けるために、今年度は「食事のマナーについての指導・朝食についての指導」「食に関する感謝の心を育てる（偏食）」について重点的に取り組む。
- ・登校指導については、比較的に良い状況も踏まえ年間4回の定期登校指導と問題発生時の集中指導を行う。また年2回の交通安全教室を行い、危険予測と回避能力の向上を目指し、よりよい交通安全への意識向上を図る。